

# 白川町立学校再編計画

## 地区説明会等における質疑・意見のまとめ

### 1 編集の意図

すでに公表している全8回の地区説明会の会議録は、会場別、発言順に記述したものである。この会議録では会場での質問や意見に対して、その都度教育委員会から回答しており、時系列に沿っていることや会場ごとに意見の特徴が見られる点で有効である。

しかし、説明会全体を通してみると同様な内容の意見や質問も多く、重複している箇所が多い。そこで、いくつかの項目を起こし、内容別に編集をした。その際、会場での意見や質問だけでなく、後日寄せられたアンケート（会場では言えなかったこと、言い足りなかったこと等を文章として教育委員会に送られてきたもの）についても追加している。また、教育委員会の回答は、内容項目ごとにまとめて示すようにした。

### 2 内容項目について

・すべての意見・質問を次の7つの内容項目に分類した。

- ① 「再編計画」に示した統合や校舎建設などの決定時期について
- ② 施設一体型小中学校の建設時期、スケジュール、建設財源等について
- ③ 地域との関わり（コミュニティスクールと地域学校協働活動）について
- ④ 教員等の配置と指導体制について
- ⑤ 「3小1中体制」実現後の義務教育学校について
- ⑥ 人口減少問題と町づくり（移住政策・廃校の利用等）について
- ⑦ その他

# 白川町立学校再編計画 地域説明会等における質疑・意見について

○地域説明会：令和4年7月16日～10月8日 町内各地区で計8回の開催

○感想、質問の書面提出件数 計12人分 ※赤字は、アンケートによる意見等

## 項目名・質疑・意見の内容

### 1 「再編計画」に示した統合や校舎建設などの決定時期について

- ・この計画が決定になるのはいつか。また、最終決定の際に住民アンケートは行うか。
- ・地域の合意とは、何をもって地域の合意と考えるのか。
- ・今後の話し合いによっては、統合の計画が白紙になったり、時期が延びることはあるか。
- ・個人的には、黒川独自の小・中一貫校にしてほしい。
- ・義務教育期間のうち、地元に残してほしい。
- ・黒川地区の場合は移住希望者が多いので、統合を少し待った方がいいと思う。過疎地域と言いながら人口の動きや流れが変わってきているので、小・中学校ともに黒川に残すことを考えてほしい。
- ・中学校は残してほしいという人が多いと感じる。中学校生活は成長過程の上で大事な時期なので、引き続き地域に中学校は残してほしい。
- ・私は移住者だが、地域に保育園から中学校まですべて揃っていて、すごく良い環境だと思ったのが移住を決めた理由である。中学校は地域に残してほしい。
- ・昔は1クラス50人学級といわれ児童生徒の人数も多かったが、年々人数も減っているので、教育の面からも早急に統合した方が良いと思う。
- ・この先を考えた時に、老朽化してきている校舎を改修しながら少ない人数で学ぶよりは、施設一体型の校舎を建設する方が経済的にも良いと考え、統合には賛成である。
- ・教育委員会の提示した再編計画に賛同すると共に、新校舎の完成を待たず可能な限り前倒しするよう希望する。
- ・教育的な観点からきちんと考えられた内容であり、示された計画案の方向で進めてほしい。
- ・学校統合に関しては、是非この計画を前向きに進めていただきたい。学校という物を作るのと同時に人をつくる、子ども達への投資という意味合いで、優先順位は一番にして欲しいという思いである。
- ・学校再編については、将来的に必要なことだと思うので、着実に進めてほしい。
- ・子どもの数が減ってきた場合、統合した方がいいと思う。その時期が令和9年新校舎ができるタイミングで行うかどうかは、当事者の保護者の意見を参考にしてほしい。
- ・少人数で中学校まで人間関係が固定化するの子どもは子どもの精神発達上、メリットをデメリットが大きく上回ると感じる。
- ・地元意見が学校再編に賛同することはないと思う。この問題について最も議論しなければいけないのは、子どもの成長に責任をもつ親であり、地域の意見は参考程度にとどめてほしい。
- ・地域の方の気持ちは分かるけど、子どもたちのことを考えると白川中学校と一緒にあって欲しい。小規模校ならではの密な人間関係も心配で、様々な考え方に触れる機会が少なく「右へならへ」にならざるを得ないことが多い。
- ・大人になるにつれて、様々な考え方、見方を身に付けて欲しいと思っているので、人数が多い中で学んでほしい。
- ・少子高齢化が進む状況において、学校運営という面で考えると小さな学校を複数運営することはコストもかかり、町民の負担も大きいので、合理性を考えてある程度まとめていく必要があると思っている。今、この時期に100人規模の学校ができるという事に関しては、自分の子どもが行くわけではないが、早く進めて欲しいと思う。

## 項目名・質疑・意見の内容

- ・統合はどちらでも良いと思っているが、教育委員会として統合する方向性や姿勢をもっと早くから示すべきだと思う。
- ・統合や新校舎建設に関しては、ベースにある子どもの数が予測しづらい状況にあると思うが、それを示していくことで、地域への理解や話し合いの幅が広がることにつながると思う。
- ・白川中学校と黒川中学校の良さをお互いに分かりあうための交流を早い段階で実施していただき、それからの決定でも良いと思う。単に白川中学校に合併する形ではなく、新たな白川町の中学校を作る、そのための具体的なアクションを示してほしい。
- ・黒川中学校の生徒や先生が白川中学校に行き過ぎず機会、逆に白川中学校の生徒や先生が黒川中学校で過ごす機会を作り、授業や文化をお互いに知り合うことが新しい中学校を作っていく上で大切ではないか。それが地域の理解にもつながっていく気がする。
- ・令和2年に白川小学校と白川北小学校、令和4年に白川中学校と佐見中学校が統合しているが、現時点で何らかの問題は発生しているか。

### 1 教育委員会の回答・方向性について

#### (1) 学校再編の基本方針

- ・白川町の将来的な学校配置については、「統合」「存続」そして「学校建設」を組み合わせることで、子どもたちにより良い教育環境を提供することを目的としている。
- ・小学校は、身近な環境で学習ができる白川、黒川、佐見の3地区に存続する。そのために、現白川小学校と現蘇原小学校は統合する。また、中学校はできる限り大人数での教育ができるよう白川中学校と黒川中学校は統合する。そのために河岐地区に施設一体型の小中学校を建設することが望ましい。

#### (2) 統合の時期

- ・小学校は、建設のための国庫補助を受けるため、新校舎が使用可能となる令和9年4月の統合を予定している。
- ・中学校も、新校舎が使用できるタイミング（令和9年4月）で白川中学校と黒川中学校を統合することを考えている。この統合を先延ばしすることは不可能ではないが、その場合の統合の時期について明確なものはない。

#### (3) 地域の合意形成

- ・本計画は決定事項では無いが、教育委員会としてより良い学校再編を行うための提案である。
- ・「地域の合意」については、話し合いを繰り返すことで保護者や地域から統合の意見や要望の気運が高まった時が合意と考えている。
- ・最終決定に住民アンケートを行う予定はない。

#### (4) 地域の意見

- ・教育委員会の提案に対して、反対、賛成、中立、それぞれの意見があることを認識している。
- ・最終的には地域の合意をもって決定することとなる。黒川地区に小・中学校とも存続する場合、黒川小学校の校舎は築49年を経過しており、施設の老朽化の課題を解決できないことになる。
- ・新校舎建設の決定は、「学校設置条例」を改正するタイミングとなるが、令和7年度から校舎建設を行うためには令和5年度が決定のリミットと考える。

## 2 施設一体型小中学校の建設時期、スケジュール、建設財源等について

- ・新校舎建設に関しては、現在の計画として3年後（令和7年度）に着工、3年間で完成という工程になっている。過去の学校再編検討委員会では仮設校舎の話があったと思うが、現校舎からの移動に変わったのか。
- ・以前は、現在の校舎を解体しプレハブ等の仮設校舎に引っ越しをしつつ、新校舎を建設するという計画だったと思うが、方針が変わったという理解でよいか。
- ・少子化が進む中での新校舎の整備となるが、新校舎の規模を教えてください。
- ・新校舎建設の場所は決まっているか。
- ・地域の人たちは子どもの姿が見える学校を楽しみにしている。頑張っている子ども達の姿が見えるような施設の設計を考えてほしい。
- ・令和9年1月に全体の85%が完成した状態で生徒が校舎に入る計画になっているが、15%を残してまで入る理由はあるのか。
- ・新校舎の工事期間中、グラウンドの使用はどうか。
- ・白川中学校の校舎の老朽化が激しく、雨漏り等で困っていると聞いた。新校舎は見た目よりも機能性やメンテナンス性を重視した方がよいのではないか。
- ・建設費用について、アスベスト等があると処理費用が増大する。今現在、建設資材が値上がりしており、人手不足もあるため、建設計画をしっかりと立案しないと目標年度に間に合わなくなる。
- ・庁舎建設の話も進んでいるが、時期が被ると財源確保は大丈夫か。

## 2 教育委員会の回答・方向性について

## (1) 施設一体型小中学校の建設時期・スケジュール

- ・これまでの経緯で蘇原小学校を仮校舎として利用する案もあったが、繰り返し検討を重ねるなかで改善・見直しを図り、現計画に至っている。
- ・プレハブ等の仮設校舎は造らず、現白川中学校の校舎に居ながらにして新校舎を建設する形とし、3年間の工事期間にすることで、単年度の建設費用を平準化する。
- ・令和7・8年度の2年間で全体の約85%、令和9年度に残りの15%を整備するスケジュールとしている。（令和9年度中の早期完成をめざす。）15%分は授業に直接影響が無い部分の整備である。

## (2) 施設の概要・コンセプト

- ・新校舎の規模は、小学校分と中学校分を合わせると約7,000㎡（文科省の基準による算定）の見込み。ただし、小中共用の教室等があるため、それよりも小さい面積となる。
- ・建設の場所は、現グラウンド敷地内でイエローゾーンを避ける必要があるため、道路沿いを予定している。（建物配置については、今後の基本計画において検討する。）
- ・「子どもの姿が見える学校」について、プロポーザルの要件としたい。
- ・新校舎は、機能性に加え、ランニングコスト等のメンテナンス性に配慮した設計とする。

## (3) 建設財源

- ・令和7年5月の開庁に向けた新庁舎整備と新校舎建設の時期を調整したスケジュールとした。
- ・施設整備に係る経費を極力抑制するとともに、財源は、国庫補助金や貯金（学校施設整備基金）のほか町債（過疎対策事業債、義務教育施設整備事業債）については、後年度に交付税措置のある優良債を活用する。

### 3 地域と学校のかかわり（コミュニティスクールと地域学校協働活動）について

- ・黒川地区は地域に密着した学びの機会が充実しており、黒川の文化を大切に思い、高校卒業後も地元に戻ってくるという環境ができてきていることは強みになっている。
- ・地域ごとに文化は違うので、それぞれの地域の中学生が全ての地域の文化に触れられるようにしてほしい。
- ・非常勤講師の配置をはじめ、地域住民との交流、連携を学校運営にうまく取り入れることが大切だと感じる。
- ・地域の中でも学校に協力したいという人もあると思うので、そうした地域人材とうまく連携できるようなコミュニケーションの場があると良い。地域住民の関わりが学校を盛り上げるような体制が出来ると学校を中心とした地域全体の活性化につながると思う。
- ・学校統合の際、子ども達が自分の学校や地域に何も感じなくなってしまう事が地元への愛着が無くなる瞬間であり、そうならないようにしたい。今の取り組みを大切に、先生や保護者をはじめ地域全体で共有することが大切だと思う。
- ・私が心配なのは中学校で統合した場合、その子たちに故郷の記憶は残るのかという点である。
- ・働く親への支援として放課後にお子さんを預かるシステムが必要だと感じる。地域の人がいろんなアイデアを出して魅力ある学校づくりをしていけるような場があると良い。
- ・部活動の地域移行に関しては、スポーツ庁が考える理想はあると思うが、本町でスポーツができる環境を残すとともに多人数でスポーツができる仕組みを研究し、白川モデルのスポーツ環境を検討してほしい。

### 3 教育委員会の回答・方向性について

#### （１）基本方針

- ・「3小1中」さらには「義務教育学校」という学校配置によって9年間の一貫教育を行い、「地域と共にある学校づくり」、「学校を核とした町づくり」を進める。
- ・地域と学校の関わりは、存続、統合どちらの場合でも大切にする。
- ・小学校を中心とした地域との協働活動を展開するほか、地域の伝統や文化は、町全体の財産として教育課程に取り入れながら地域と共に進めていくことや新たなものを創りあげていく。

#### （２）カリキュラム

- ・地域の文化に触れる機会を大切に、お互いの地域を学び合えるようなカリキュラムづくりを進めていく。
- ・カリキュラムについては、「新しい学校づくり検討委員会」において協議するとともに、その経過は随時公表していく。

#### （３）部活動の地域移行

- ・地域スポーツクラブとして、スポーツが継続できるよう体制の充実を図ると共に、部活動を地域に移行した場合の学校の教育課程を併行して検討していく。

4 教員等の配置と指導体制について

- ・黒川中学校を残したとしても、中学校の免許外指導が解消になったり、中学校教員による小学校の専科指導ができると思う。
- ・3小1中になった場合、非常勤講師が配置できるのか。教員不足が言われている中で、黒川に中学校を残した方が、白川中学校と黒川中学校で乗り入れ指導ができるなど融通が効くのではないか。
- ・一体型の小中学校と比べ、佐見小学校や黒川小学校は、教育的な格差が否めないと思うが、そこは格差と捉えず特徴として伸ばしていくという考えを持ってほしい。
- ・小学校から中学校、中学校から小学校への乗り入れ指導に関しては、先生方の負担は無いかわかってほしい。
- ・教員の確保や学校の体制が深刻な問題だと思う。教員が日々の対応に追われている中で、何かあった際の対応は難しいのではないかと感じる。
- ・教員確保が非常に難しい現状で、今のままの学校規模で将来的に継続していくのは難しいと思うので、ある程度学校を統合して教員数を減らしていくことが必要だと考える。
- ・黒川中学校では少人数だったので、学力は町内でも高い方だと聞いている。白川中学校では部活動の方に力を入れていると聞いているので、文武両道で学習面でも力を入れて欲しい。

4 教育委員会の回答・方向性について

(1) 教員等の配置

- ・教員不足は全国的な問題であり、岐阜県教育委員会としても対策を考えている。白川町教育委員会としては、今後も町単独で新たな人材の確保や複数校の兼務などを行い非常勤講師の配置に注力していく。
- ・完全複式（2学年ずつ3つの複式学級）の佐見小学校では、国語や算数など系統性の高い教科の授業については、単式で授業を行うように多くの非常勤講師を配置している。黒川小学校は2・3年生が複式学級だが、これについても同様に非常勤講師を配置している。
- ・佐見小学校や黒川小学校は小規模だが多くの非常勤講師を配置しており、むしろ手厚くなっている。

(2) 指導体制

- ・小規模校であっても、異年齢交流によりお互いにより関係性を築くことができ、これは貴重な経験として子ども達の成長の糧となっている。人間形成という本質的な部分を大切にする教育を進めたい。
- ・小・中9年間の一貫教育により、教員が縦の系統を研究することで子どもにとって幅広い学びが可能となる。また、教育技術の向上を図るとともに、学び続ける教員を育成する。
- ・かつて白川中学校と黒川中学校の本務教員が兼務によって教科指導を行ったことがあるが、学校間に距離があり非常に効率が悪かったため実施しない予定である。

(3) 校舎の老朽化の問題

- ・黒川小学校と黒川中学校を存続する場合にも非常勤講師などの配置に努力するが、築49年の黒川小学校老朽化の問題は解消できないまま残ってしまう。そのためにも「3小1中」体制を考え、現黒川中学校校舎を黒川小学校校舎として活用する。

## 5 「3小1中体制」実現後の義務教育学校について

- ・10年先を考えたときに白川町が存続するのか、それが義務教育学校という形で良いのか、疑問に思う。
- ・令和9年の子どもの人数等を確認すると“3小1中”でもいいのかと考えさせられる。
- ・義務教育学校となる場合は、町内の小・中学校が全て一緒になるのか。
- ・義務教育学校の案については時機を視て、という表現になっており地元としては少し安心している。人数的にはまだ佐見小学校は頑張れると思う。
- ・まずは3小1中だが、最終的には義務教育学校を目指すというもので、その独自性を本町の教育プログラムに導入してほしい。
- ・本町が目指す小中一貫校についてモデルとしている学校はあるか。
- ・町内で3小1中という事だが、もう少し先には1小1中になることも考えられる。その先は、白川町、八百津町、七宗町との合同の学校という事も考えられる。（少子化を止めることができない場合）

## 5 教育委員会の回答・方向性について

**(1) 義務教育学校の構想**

- ・まずは3小1中体制を構築し、その後時機を視て義務教育学校に切り替えるという案は残している。つまり、令和2年1月の答申から義務教育学校に関する考え方は変えていない。
- ・そのため、現在は3小1中体制について町民の皆さんに丁寧な質問を行い、ご理解いただくことを優先する。
- ・「時機を視て」とは、3小1中体制実現後、義務教育学校の普及や教員配置、小中9年間の指導が充実し始めたところを見極めていくということである。

**(2) 義務教育学校の内容**

- ・学校の配置は、3小1中の校舎をそのまま使用し、河岐の小中一体校と黒川、佐見地区の小学校を全てまとめて1つの義務教育学校とする案を考えている。このような配置（体制）の実例は現時点ではどこにもなく、白川町ならではの考えである。
- ・今後の子どもの数などを見極めながら、「新しい学校づくり検討委員会」等で1年生から9年生までの教育課程のあり方を研究するとともに、望ましい教育環境を検討する。

## 6 人口減少問題等と町づくり（移住政策・廃校の利用等）について

- ・移住施策という町の活性化とあわせて検証しながら、学校再編の在り方を検討してほしい。
- ・学校が無くなると、地域の衰退が心配される。今後も黒川に移住したいという話はあると思うが、中学校が無くなると分かったら考え直す人も出てこないか心配である。
- ・このような形で再編が進むことは仕方無いと思っている。しかし、そんな中でも若い世代にこの地域で子育てをしたいと思ってもらえるような施策も含めて考えるべきで、そうしないと将来的にこの地域を持続していくのは難しいと思う。
- ・子供の数が減少するなかでの計画だと思うが、これで本当に人口減少や少子化は止まるのか。新しい学校づくりを進めるのであれば、町外からでも来たいと思えるような学校であって欲しいし、子供が増えるような施策がセットで実行されるべきだと思う。少子高齢化が待ったなしの状況で、この流れに歯止めをかけ、この地でなければできない学校づくりをし、子育てをしたいと思えるような地域づくりをして欲しい。学校再編は大改革だと思うので、斬新で思い切った改革を望んでいる。
- ・中学校が遠くなると移住したいという方も減り、町の人口も更に減少していくのではないかと思う。特に黒川に移住したい、という方がいるならこのまま中学校を残し、白川町を存続させていかなければいけないという思いになった。もし、黒川地区の人口、子どもの数が増えた場合でも統合はするのか。
- ・白川町は自然豊かで移住に適しているので、うまくPRするなど、子どもの人数を増やすことをあきらめずに町と教育委員会と一緒に進めてほしい。
- ・廃校後の校舎活用について、伊豆の場合は、廃校後の校舎を温泉施設に転用することでホテル経営をしている事例もあることから民間企業による跡地活用についても検討していく必要があると思う。
- ・学校統合が進むと廃校となり校舎が空いてくると思うが、その後の利用について計画や予定はあるのか。
- ・3小1中体制になった場合、使用しなくなった校舎はどうするのか。旧白川小学校の体育館は社会体育で使用されているが、校舎そのものは活用がされていないので、多目的に活用することはできないか。
- ・廃校の利用について、例えばプールは魚の養殖、校舎はレストラン、宿泊施設など町に利益をもたらす施設をつくり、若者の職場を増やすことで、町の活性化を図ってほしい。
- ・美濃加茂市と本町では立地条件が異なるが、特に黒川や佐見については小規模特認校という制度を活用した取り組みができないだろうか。

## 6 教育委員会の回答・方向性について

**（１）移住政策**

- ・「学校を通じてのまちづくり」という視点で、施設一体型の小中学校を魅力的な施設にするとともに、教育そのものが町外からも注目されるものにしていきたい。
- ・町全体の出生数が減少するなか、移住による人口増は大切な要素であり、町全体の課題として取り組む必要がある。
- ・本町はすべて小規模校であり、美濃加茂市の小規模特認校制度は適用できない。

**（２）廃校の利用等**

- ・学校施設は比較的立地条件の良い場所にあり、構造的にも問題はないので地域と相談しながら有効活用を図りたい。文科省の「みんなの廃校活用プロジェクト」に登録する予定である。
- ・佐見地区については、有志による学校施設の活用事例の視察を行っている。  
(旧馬瀬中：企業による廃校舎の跡地活用)
- ・教育委員会だけでなく町全体の課題として、町の活性化につながるような活用を検討する。

## 7 その他

- ・保護者の参加が少ないと感じているので、当事者としての意見や声はきちんと把握していただきたい。
- ・小・中学生の保護者の参加はほとんど無い状況である。今後、保護者を対象とした説明会をはじめ地域説明会を進捗状況に合わせて開催してほしい。この地区は2年前にも統合を経験しており、次は蘇原小学校との統合をするが、中学校はこれまでどおり白川中学校ということであまり違和感が無いと感じている。
- ・子育て世代、保護者の参加が少ない。地域説明会の開催はありがたいが、保護者としてしっかり時間をもって意見を聴く機会を設けてほしい。
- ・保育園児や小さな子どもを持つ保護者はこの話を聞く機会が無く、自分も含めて十分理解する必要があると感じた。小中学生の保護者だけでなく、保育園児や未就園児の保護者向けにも説明の機会はあると良い。
- ・説明会には当事者である保護者の参加は少なかったもので、どのように思っているのか。（説明会に来た方は反対の方が多かったようだったが・・・）
- ・町外など外に住んでいる人に対して情報発信ができるような体制や会議があると良いと思う。
- ・今後の学校再編計画について、町内小中学校の卒業生も分かるように、例えば成人式などの機会を利用して周知することを検討してほしい。
- ・佐見における教育の取り組みや学校や地域での子供たちの様子を知ってもらえるような仕組みや機会を考えてほしい。
- ・東白川村との学校統合は考えていないのか。
- ・楽集館を中心とした読書活動に力を入れていただいております。読書のまちとしての本町の取り組みは他の模範になっている。しかし、現在のJAの施設については、老朽化が進んでいるのでどこかのタイミングで極力経費を掛けないように、また、お年寄りも利用しやすい1階部分にスペースが確保できるような計画案を検討してほしい。
- ・白川町の予算において、義務教育に係る予算はどれくらいの規模となっているか。
- ・小規模校との統合ではあるが、人数が増えることで色々な選択肢が増えたことを実感している。実際に統合を経験した子どもの声や意見を聞く機会があると今後統合を迎えようとしている保護者の参考になると思う。
- ・今後、統合をした場合の子どもの数は把握できているか。統合後の将来的な見通しがあれば教えてほしい。
- ・新校舎建設にあわせて、将来的に楽集館や給食センターを併設するとなると敷地としては足りるのか。

## 7 教育委員会の回答・方向性について

- ・今後も学校行事、保育園行事などの場を借りながら保護者を対象にした説明会を継続していく。また、広報誌等で情報発信を行っていく。
- ・東白川村など他市町村との学校統合は考えていない。
- ・当面、建設するのは施設一体型小中学校であるが、その際、将来的には図書館や給食センターを併設できるような構想を進めていく。敷地は決して十分ではないので、大野台パークや閉校となった学校のプールなどを活用することも考えている。